

2024 年 7 月 12 日 帝塚山高等学校 3 年生 特別セミナー

帝塚山高等学校（奈良県）3 年生 40 名（男子 13 名、女子 27 名）に「プレパパ・プレママ教室」を実施しました。修了生の永井真理子 CGC も参加して、遺伝カウンセリングの際、ご夫婦に対してどのような配慮をしているかを話してもらいました。

NIPT の意思決定では、受検する 36 名（男子 13 名、女子 23 名）、受検しない 4 名（すべて女子）でした。羊水検査の意思決定は記入者 30 名中、5 名（男子 3 名、女子 2 名）が受検する、25 名（男子 7 名、女子 18 名）が受検しないと選択しました。

終了後のアンケートは 36 名より回答がありました。授業前に「出生前診断」について聞いたことがあったり、調べたりしたことがある人は 20 名（56%）、30 名（83%）は「NIPT」について聞いたことがない生徒さんでした。出生前検査や遺伝について、9 割が「関心を持った」と回答し、将来役に立つと思うかどうか（5 点満点の評価）の平均 4.83 点でした。

今回は、永井さん（修了生）、井手尾さん（修士 2 年）のレポートを紹介します。

=====

大阪急性期総合医療センター 永井真理子(修了生)

遺伝講座「プレパパ・プレママ教室—妊娠中の遺伝学的検査について考えてみよう—」に初めて参加させていただきました。出生前検査がどのようなものであるのかお話を聞いていただいた後、自分自身が妊婦さん、もしくは自分の奥さんが妊婦さんという立場で、出生前検査を受けるか、受けないかについて考え、グループで討議される様子をそばで見させていただきました。「赤ちゃんに病気があっても生むのだから、検査は受けない。」「赤ちゃんに病気があるかどうか知っておいたほうがいいから検査は受ける。」「はっきりさせた方がいいと思うけど、(羊水検査で)痛い思いをするのは自分ではなく妻。“検査をして”とは言えない。」学生の皆さんが「自分ごと」としてしっかり考えておられる様子が印象的でした。出生前検査や遺伝学的検査が「自分ごと」になる機会は今後ますます増える世の中になっていくことが予想されるなか、遺伝情報がどのようなものであるのか、検査を受けること、受けないことの自分にとっての意味を考えることの大切さをこのような形で体験するということは、とても大切なことだと思いました。

遺伝を通して唯一性、多様性を学ぶこと…遺伝教育プロジェクトは大事な取り組みであり、認定遺伝カウンセラーとして、これからも参加させていただきたいと改めて思いました。長崎大学遺伝看護・遺伝カウンセリングコースで学んだことを大事に認定遺伝カウンセラーとして頑張っていこうと思います。

=====

遺伝看護・遺伝カウンセリングコース 2 年 井手尾 里美

帝塚山高等学校 3 年生の生徒さんと、赤ちゃんの出生前検査について学習しました。女子生徒さんは『妊娠している妊婦』男子生徒さんは『自分の妻が妊娠している』という仮定のもと、出生前検査を受ける際の気持ちを体感してもらったり、遺伝学的検査を受検す

るか否かの意思決定をしてもらったりすることを通じて、遺伝情報の特殊性や遺伝情報を調べることの重みについて考えてもらいました。

「NIPTではわからない病気の可能性もあるんだったら、調べなくてもいいと思った」や「前もってわかったら、心構えができるし赤ちゃんが必要な医療を受ける準備ができるから受けるメリットあるよね」という意見に、「どっちの考え方もあるよね。だから決めるのに迷った。」と簡単には決められなかった気持ちを話してくれました。ある生徒さんは「この検査(NIPT)」受けて陽性だった人は中絶する人が多いんですか？」と命の尊さについても考えてくれていました。遺伝情報を知ることや遺伝情報を知った後にどのような選択をするかには、正解も不正解もありません。そのことを、生徒さん一人一人が自分のこととして考え、互いを尊重し合いながら学んでいる姿はとても印象的でした。

このような取り組みを行うことで、遺伝情報を知ることについて考えることの大切さを学び、唯一性と多様性を認め合いながら大人になっていくことが出来ると思います。遺伝教育プロジェクトの活動を多くの方に知ってもらえるよう、遺伝看護・遺伝カウンセリングコースの学生として今後も頑張っていきたいと思っています。



2025 年 5 月 文責：森藤香奈子

<帝塚山高校の取り組み>

私達は、帝塚山高等学校のセミナーの一部として、本プログラムを実践させていただいています。この度、帝塚山高等学校の仲島浩紀先生が、全体の取り組みを論文で報告されました。

医療人の涵養を目指した進路指導プログラムの開発と実践

—「医学部一直線セミナー」の実践を通じて—

<https://tezukayama.repo.nii.ac.jp/records/2000186>